今和3年度	学校運営協議会委員による評価書	
マルコーク	ナ 仅 廷 占 励 戚 云 女 貝 に め つ 正 画 自	

東洋町立甲浦中学校 学校教育目標 「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる生徒の育成」

	`	令和3年及 字校建宮協議会安員による評価書 		· 果汗可立中用中字校		そのを将来につなくことが (さる生徒の		
項目	自己評価	めざす生徒像	主な取組内容	取組内容の評価指標	達 成 状 況	改善方策	学校運営協議会委員コメント	評価
チャレンジ精神	S · A · B · C	主体的に挑戦し、成功や失 敗を学びとして、夢に向かっ て努力することができる生 徒	①生徒のチャレンジに対し肯定的な評価・励ましを行う。 ②行事や取組の振り返りを充実させ、次につながる指導や支援を行う。 ③生徒が自分自身で選択・決定する機会を設ける。	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ( )は肯定的意見割合 全校生徒28人 ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている (82.1%→89%) ※23人→25人 ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている (85.7%→89%) ※24人→25人 ③将来の夢や目標に向かって努力している (82.1%→89%) ※23人→25人	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) () は肯定的意見割合(左:到達指標 右:  月調査) ※は、左:到達指標 右:  月肯定人数 回答28人 ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている (89%→89.3%) △ ※25人→25人 ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている (89%→92.9%) △ ※25人→26人 ③将来の夢や目標に向かって努力している (89%→85.7%) ▽ ※25人→24人 ★①②5月調査より2名増、③1名増。	<ul> <li>①生徒に一歩目を踏み出す勇気を与えるため、スモールステップの成功体験を積み上げさせ、常に肯定的な評価・励ましを継続して行う。</li> <li>②生徒会を中心に生徒の意見を取り入れた行事や取組を行い、達成感や次への意欲を育てる。</li> <li>③生徒に自己決定の場を与え、諦めずに取り組むきっかけをつくる。</li> </ul>	<ul> <li>○取組の達成はできていると思われる。</li> <li>○項目毎の改善対策を教職員が共有し目標達成に向け努力する。</li> <li>(一丸となり取り組む。)</li> <li>○将来の夢や目標が見えにくい環境があると思います。地域で子どもが安心して挑戦できる環境をつくっていければと思います。</li> <li>○努力していることを評価させて頂きます。</li> </ul>	S · A
コミュニケーションカ	S · A · B · C	生きた挨拶や場に応じた言 葉遣いができ、『話す・聞く』 を大切にできる生徒	体に発表する機会や、他者の 考えについて意見を述べる場 面を多く作る。	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ( )は肯定的意見割合 全校生徒28人 ④自分からすすんで人にあいさつしている (92.9%→100%) ※26人→28人 ⑤人の考えや発表を誠実にきいている (92.9%→100%) ※26人→28人 ⑥自分の考えや思いを伝えることができる (75%→89%) ※21人→25人	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ()は肯定的意見割合(左:到達指標 右:  月調査) ※は、左:到達指標 右:  月肯定人数 回答28人 ④自分からすすんで人にあいさつしている (100%→89.3%) ▽ ※28人→25人 ⑤人の考えや発表を誠実にきいている (100%→92.9%) ▽ ※28人→26人 ⑥自分の考えや思いを伝えることができる (89%→75%) ▽ ※25人→21人 ★④5月調査より1名減。  ☆⑤強い肯定4名増 ⑥強い肯定1名減。	①生徒一人ひとりに居場所が保障され、自由に自分の思いを伝え合うことのできる学級づくりを進める。 ②教職員自らの意識を高め、見本となれる言動を行う。 ③朝学活や週学活で取り組みを強化する。(例:挨拶や立ち姿) ④キャリア教育でのゲストティーチャー等を活用し、社会性を育む。 (地域学校協働本部との連携)	○自分から進んで挨拶ができている。 ○項目毎の改善対策を教職員が共有し 目標達成に向け努力する。 (一丸となり取り組む。) ○様々な人と接し、他人を思いやる経験 を積めるような取組を考えていければ と思います。 ○努力していることを評価させて頂きま す。 ○小中合同のコミュニケーション授業が あっても面白そう。	A · B C
自尊感情		自分や他人を大切にでき、 自分自身に誇りを持って行 動できる生徒	①生徒が互いに認め合う、褒め合う等肯定的評価を行う機会を多く設定する。 ②生徒の長所や良き言動を認め、タイムリーな評価を行う。 ③生徒も教職員もお互いに感謝	<ul> <li>●(めざす生徒像 アンケート 生徒版)</li> <li>( )は肯定的意見割合 全校生徒28人</li> <li>⑦自分には良いところがある (64.3%→82%) ※18人→23人</li> <li>⑧人を思いやる心を大切にしている (89.3%→92%) ※25人→26人</li> <li>⑨自分の考えや判断を大切にして行動している (85.7%→92%) ※24人→26人</li> </ul>	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ()は肯定的意見割合(左:到達指標 右:  月調査) ※は、左:到達指標 右:  月肯定人数 回答28人 ⑦自分には良いところがある (82%→78.6%) ▽ ※23人→22人 ⑧人を思いやる心を大切にしている (92%→92.9%) △ ※26人→26人 ⑨自分の考えや判断を大切にして行動している (92%→96.4%) △ ※26人→27人 ★⑦⑧⑨の3つの全項目で、5月調査より良く なっている。 ★⑦5月調査より強い肯定5名増。	※令和4年度重点取り組み ①生徒が互いに認め合う、褒め合う等 肯定的評価を行う機会を多く設定す る。(学級活動、生徒会や専門委員 会の活用) ②学級や全校のリーダーを中心に集団 づくりを強化する。 ③生徒指導の三機能をすべての教育 活動に導入し、自己肯定感や自己有 用感を育成する。	○項目毎の改善対策を教職員が共有し目標達成に向け努力する。 (一丸となり取り組む。) ○以前よりも自尊心の高い子どもたちが増えたことは良かった。 ○個々の性格にもよると思います。それぞれに合った対応で取り組んでほしいと思います。 ○小学校と同じく、良いところを見つけ、それをどう活かせるか話し合うと面白いかも。	S
郷土愛		地域愛をもち、甲浦の良さ を誇り、地域に貢献できる生 徒	③総合的な学習の時間の取組	<ul> <li>●(めざす生徒像 アンケート 生徒版)</li> <li>( )は肯定的意見割合 全校生徒28人</li> <li>⑩自分の住んでいる地域が好きである(75%→85%) ※21人→24人</li> <li>⑪地域の魅力を伝えることができる(71.4%→85%) ※20人→24人</li> <li>⑫地域のために貢献できる人間になりたい(67.9%→85%) ※19人→24人</li> </ul>	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ()は肯定的意見割合(左:到達指標 右:11月調査) ※は、左:到達指標 右:11月肯定人数 回答28人 ⑩自分の住んでいる地域が好きである (85%→78.6%) ▽ ※24人→22人 ⑪地域の魅力を伝えることができる (85%→82.1%) ▽ ※24人→23人 ⑫地域のために貢献できる人間になりたい (85%→75%) ▽ ※24人→21人  ★3項目とも、達成指標には届いていないが、 5月調査よりは向上している。特に、文化発表会の影響か、⑪で肯定評価が3名増加。	①地域行事への協力体制をつくる。 ②コロナ禍で停滞していた地域学校協働本部の協力を得て、郷土のことを取り入れた授業や体験を行う。 ③総合的な学習の時間(SDGsやキャリア学習等)の取組を充実させ、地域の良さや課題を学ぶ場を設定する。	○項目毎の改善対策を教職員が共有し目標達成に向け努力する。 (一丸となり取り組む。) ○子どもたちが郷土について新しい発見 や良さを学べる学習を地域住民も一緒に関わっていきたい。 ○コロナ禍で残念なことばかりです。大人社会にも問題があると感じています。 ○小学校と同じく。他の地域を知ることもまた、郷土を知ること。	S A B
学力向上	S · A · B · C	主体的・対話的に学び、学習した内容を活用して、問題解決することができる生徒	①授業力を向上させ、生徒が『できた』を実感する授業を行う。 ②生徒が主体的に問題解決できる場面を設定する。 ③『めあて』を効果的に提示し、『まとめ』を共有させる。	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ( )は肯定的意見割合 全校生徒28人 ③授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている (82.1%→89%) ※23人→25人  ④話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (85.7%→89%) ※24人→25人 ⑤平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる (60.7%→75%) ※17人→21人	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ()は肯定的意見割合(左:到達指標 右:11月調査) ※は、左:到達指標 右:11月肯定人数 回答28人 ③授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている (89%→82.1%) ▽ ※25人→23人 ④話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (89%→85.7%) ▽ ※25人→24人 ⑤平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる (75%→64.3%) ▽ ※21人→18人 ★全項目で到達指標を達成できていない。 また、⑥の項目は来年度への大きな課題。	※令和4年度重点取り組み ①教員自らが授業力を向上させるため、自己研修や集合研修に積極的に参加し、「学び続ける教師集団」を構築する。 ②甲浦中版 学習スタンダードを徹底する。 ③『めあて』を効果的に提示し、『まとめ』を共有させる。また、振り返りを活用し、指導改善を図る。	○課題に向けて頑張りましょう。 ○項目毎の改善対策を教職員が共有し 目標達成に向け努力する。 (一丸となり取り組む。) ○学校だけでなく、地域・家庭が共に 学力向上に取り組む事が大事だと思い ます。 ○それぞれの能力に合った伸び方で良 いのではないかと思います。文武両道 は、理想ですが努力を評価したいと思 います。 ○改善方法①面白い。	S .
生活習慣		時間やルールが守れ、礼儀を大切にし、当たり前のことが当たり前にできる生徒	①生活7カ条を活用し、自分の生活を振り返させる。 ②絶えず振り返る機会を作り、『当たり前』を意識させる。 ③生徒の見本となるような言動を心がける。	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ( )は肯定的意見割合 全校生徒28人 ( ) 個毎日朝食を食べている ( (96.4%→100%) ※27人→28人 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	●(めざす生徒像 アンケート 生徒版) ()は肯定的意見割合(左:到達指標 右:  月調査) ※は、左:到達指標 右:  月肯定人数 回答28人 (⑥毎日朝食を食べいる (100%→92.9%) ▽ ※28人→26人 ⑦約束した時間や決められたルールを守っている (100%→96.4%) ▽ ※28人→27人 (⑧当たり前のことが当たり前にできている (あいさつや掃除等) (100%→92.9%) ▽ ※28人→26人 ★全項目で、100%をめざしたが、達成できなかった。家庭の協力を得られる工夫が必要。	①保健便りや学校便りを活用し、 家庭の協力が得られる啓発活動を 研究していく。 ②生活7カ条を活用し、自分や集団の 生活を絶えず振り返る機会や価値 付け、意味づけを行い、『当たり前』 を意識させる。(しつけも必要) ③生徒の見本となるような言動を心が ける。	○達成できていない課題を分析してからの取組が必要と思います。 ○項目毎の改善対策を教職員が共有し目標達成に向け努力する。 (一丸となり取り組む。) ○生活習慣は、家庭環境に大きく影響するため、家庭の協力を得られる工夫は必要だと思います。 ○各家庭による事が一番大切だと思います。親として考える事の方が大事な様に思えます。 ○主な取組内容②を詳しく聞きたい。	S